

4. 結果及び考察

(1) 相談者の参加層

祭り参加者が往来する中で、相談室への参加を「呼びかけ」、それに応じ、あるいは余暇相談室の看板を見て積極的に相談に訪れた人を職業別比較と年代別比較で分析したものを図2と図3に示した。

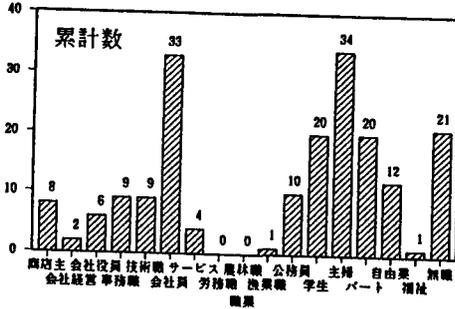


図2 職業別比較

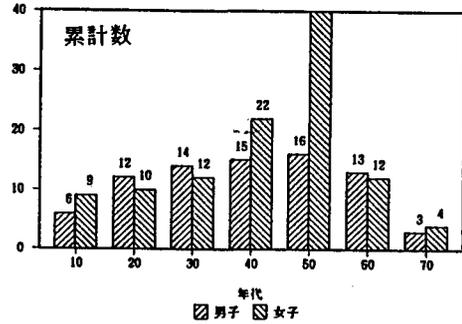


図3 男子・女子の年代別比較

職業別では男性では会社員、女性では専業主婦とパート労働者をもっとも多い。年代別では40代、50代の女性が他の世代や男性より著しく多い。特に50代の女性は、同世代男性の約3倍である。これらのことより50代の主婦層に一定程度余暇生活相談を受け入れるターゲットが存在していると考えられる。逆に20代、30代の女性は同世代の男性と比較して街頭での余暇生活相談を受けた度合いが少ない。女性の場合、年代によって余暇生活相談室へ訪れる度合いに明かな偏りがあった。

(2) 余暇相談をする相手

相談の相手として夫か妻と友人が圧倒的に多い。しかしその中味をみると男性は友人より妻を頼り、女性は夫より友人を頼っている。しかもこのことの年代的比較による男性では若い時は友人であり40代以後は妻を頼る者が多く逆に女性では30代までは夫を頼るがそれ以後は友人を相談相手としている。余暇の相談相手として男女による相違に転換点があるとすれば30代後半から40代であると言えるのではないか。このことは「濡れ落ち葉」や「恐怖のワシ族」のルーツもこの年代からの行動で説明がつくかもしれない。

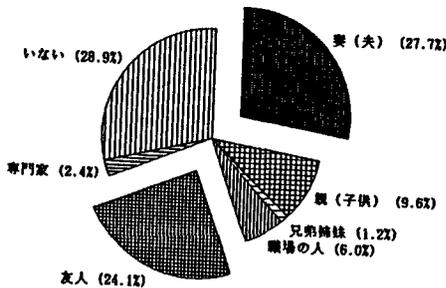


図4 男性の余暇相談相手

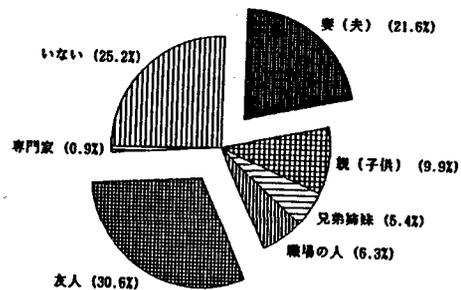


図5 女性の余暇相談相手

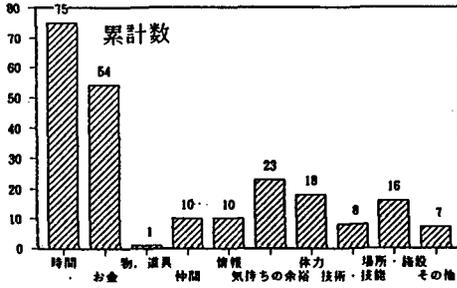


図10 余暇で不足しているもの

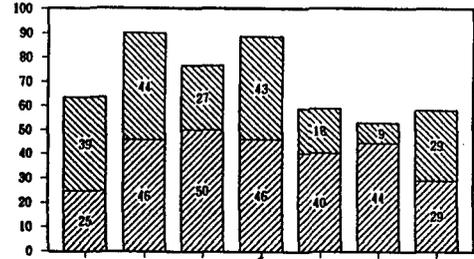


図11 時間とお金の不足累計率

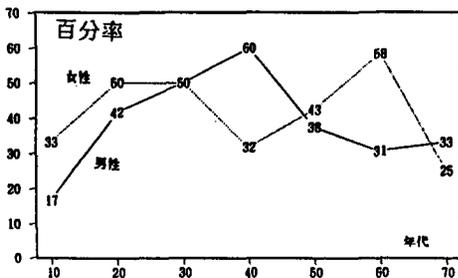


図12 年代別時間不足感

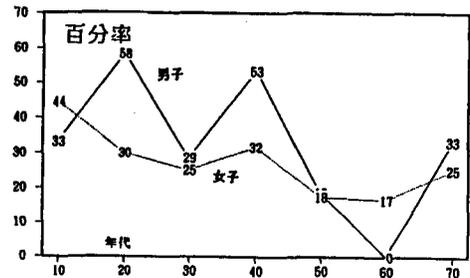


図13 年代別お金不足感

(5) 相談者の感想と余暇生活相談室を知った方法

圧倒的に多くの人余暇相談を楽しんでくれている。このうちの約半数は再度相談にきてみたいと答えている。またこの相談室を知ったのはいちょう祭に来て偶然に通りがかったからであり、「八王子余暇生活相談室」の看板と通りすがりの人への呼び込みが相談者の層を決定している。

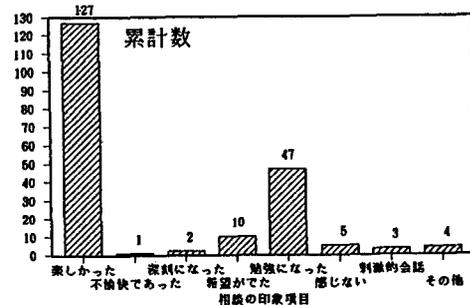


図14 相談室の印象

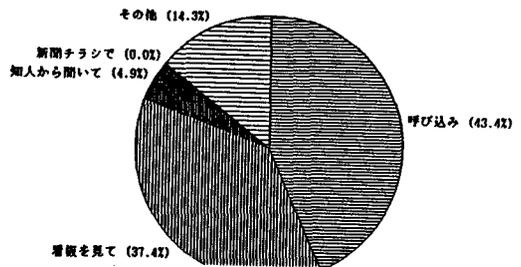


図15 どうして相談室を知ったか

5. 参考文献

- 1) 月刊レクリエーション、1990(2) - 1991(1)、
「市町村レク協会にレジャー・レク相談所を設けよう」

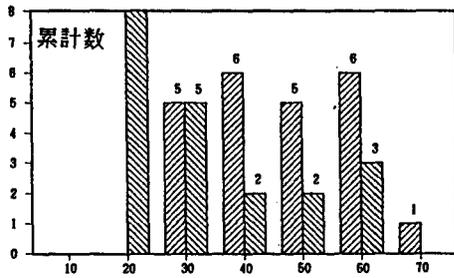


図6 妻と友人の年代別比較

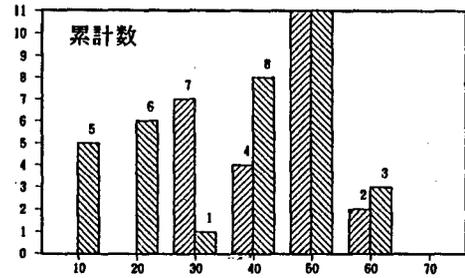


図7 夫と友人の年代別比較

さらに男子は3人に一人、女子は4人に一人の割合で余暇相談する相手がいないとしている。年代別に比較するとどの世代にも一定程度相談相手がいないことを示していたが、やや10代の男性と70代に多めに存在する傾向があった。

(3) 余暇の理解者と余暇の不理解者

余暇の理解者は圧倒的に妻・夫であるが、特に男性は妻が理解者としてあげる率が高い(53%)。女性にとって夫が余暇の理解者となるのは36%である。この他にも差異が認められたのは、親や子どもという家族関係を余暇理解者として捉えている率である。男性は15%であるが女性は約2倍の率で余暇理解者だとしている(28%)。余暇の不理解者では男性にとって妻が15%であるが、女性にとって夫になっている場合が21%と高い。このように男性と女性では理解者と不理解者では逆転している。

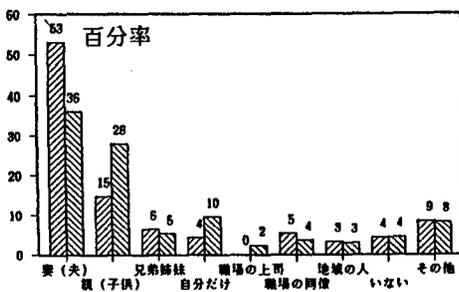


図8 男女別の余暇理解者

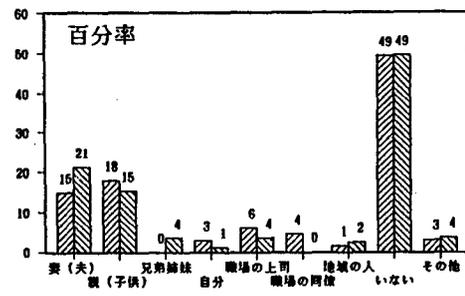


図9 男女別の余暇不理解者

(4) 余暇生活に不足しているもの

余暇生活の主体的条件の心構え、技能、体力と環境的条件の人、物、金、時間、情報それにその他を加えて質問した。主体的条件では「気持ちの余裕」と「体力」がないことを意識しているが「技能」面はそれに比べあまり意識されていない。環境的条件として「時間」と「お金」をあげている。これは余暇には「時間」と「お金」が必要と考え、余暇生活の不足理由の圧倒的理由にしている。時間不足は全世代ともかなりの高率である特に40代の男性と60代の女性に時間不足感が一番高く現れた。